

CASBEE 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	尾池工業株式会社上鳥羽西館	階数	地上5F
建設地	京都府京都市南区上鳥羽南塔ノ本町	構造	RC造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	150人
気候区分		年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年4月 予定	評価の実施日	2103年4月1日
敷地面積	987 m ²	作成者	(有)スタジオ エイ・エイ
建築面積	507 m ²	確認日	
延床面積	2,365 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 0.9 ★★☆☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超 ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 85% ③上記+②以外の 85% ④上記+ 85%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.7</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合 本社機能を持つ事務所ビルの新築計画。階ごとに機能的にゾーニングされたプランを持つ。外観は、東面・北面の各階に庇があり、さらに東側のカーテンウォール(CW)面の水平ルーバーにより、水平線が強調されたデザイン構成をしている。構造的には、一部にPC梁を採用し、無柱空間のイベントホールや広々とした業務スペースを確保している。</p>		<p>その他 特になし。</p>
<p>Q1 室内環境 外部騒音を防ぐため、外部開口部(標準部等)の遮音性能は、T-2等級。東面開口部は、十分な自然採光が得られるCW窓とし、星光を積極的に利用。複層ガラスを採用し、断熱性能を高めている。内装材は、F☆☆☆☆の材料を使用。</p>	<p>Q2 サービス性能 事務所スペースは天井高は2.7mを確保し、隣接して吹き抜けのあるラウンジを計画。東側及び北側の開口部はCWとし、空間的な広がりを感じられる計画としている。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) 「京都市眺望景観保全区域内(遠景デザイン保全区域)」に該当するため、条例による届出を行っている。</p>
<p>LR1 エネルギー LED照明を積極的に採用し、エネルギー削減を図る。屋上に太陽光発電設備を設置し、自然エネルギーの利用を図っている。空調方式は、空冷ヒートポンプビル用マルチエアコン方式を採用し、使用時間帯を考慮し、一部、氷蓄熱方式を採用。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 節水型便器、撥音装置のほか、自動洗浄の小便器、手洗い・洗面には自動水栓を採用し、節水に取り組む。</p>	<p>LR3 敷地外環境 敷地東側の接道にそって重点的に緑化を図り、敷地外部との調和に努める。駐車場の台数を確保し、周辺道路に対し、渋滞や路上駐車などが発生しないよう配慮。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される